

1 地域の最良のパートナーとして、常に地域と共に歩む。

当金庫の活動の起点は「地域」であり、地域・お客さまと当金庫とは、一種の運命共同体と言えます。当金庫がより緊密に地域・お客さまとの関係を創り上げ、絶対的な信頼関係を築いていくことにより共に悠久の発展を遂げることを願っております。

『最良のパートナー』とは、まさに地域（お客さま）との「絶対的な信頼関係の構築」を目指すものであり、『常に地域と共に歩む』とは、「地域（お客さま）と共に悠久の発展をする」という決意表明であります。

2 柔軟で創造性の高い組織力を発揮し、地域金融機関としての使命を全うする。

いかなる状況下においても、あらゆる局面に対し組織としての確かつ迅速に対応していくためには、当金庫自体が高い柔軟性を備えていることが前提となります。また、信用金庫の独自性を発揮するためには、これまで以上に業務の遂行や課題解決など、組織活動の全般にわたって、当金庫の創造性を高めていくことが必要となります。今後、当金庫は、役職員の経験・知識を集積、共有しつつ、新たな「組織としての知識」を創出し、当金庫自体の創造性を高め『地域金融機関としての使命を全う』してまいります。

3 秀れた人材を育成し、豊かで活力あふれる未来を創造する。

はじめに『秀れた人材』ありき、というより、むしろ人（役職員）は、その育成の仕方・処遇などにより、誰もが『秀れた』存在になり得る可能性を常に秘めているはずです。

人材の育成については、高い先見性と明確な目的をもって、組織を挙げて取り組んでまいります。

『豊かで活力あふれる未来』とは、「地域・お客さまの…」『当金庫の…』『職員の…』という言葉の全てを内包させております。

ビジョン

- 地域のニーズに応え、最良のサービスを迅速に提供する。
- 地域社会の豊かな発展を実現するトータルアドバイザーとして信頼度NO.1を目指す。
- 揺るぎない経営基盤を確立し、信用金庫としての社会的使命を遂行する。
- 環境の変化に応じて自己革新できる柔軟な組織を目指す。
- 将来を見据えた人事政策、能力主義人事の徹底により秀れた職員を育成する。
- 自由闊達で創造力と活力にあふれた働きがいのある信用金庫を目指す。

基本的な考え方は経営理念の順に各二項ずつがこれに対応しています。現状を踏まえ、近い将来に当金庫が目指すべき姿をより具体的にイメージしております。

行動指針

- 私たちは地域社会の一員として誇りをもって行動します。
- 私たちは積極かつ迅速に行動します。
- 私たちは何事にも信念をもって行動します。
- 私たちは明るい笑顔、感謝の心をもって行動します。
- 私たちはより高い目標に向かって行動します。

行動指針は経営理念・ビジョンを踏まえ、当金庫の役職員がどのように行動すべきかをシンプルかつ明快に表現したものであり、地域・お客さまへ向けての宣言としております。

新三か年計画「Shinking 2030 セカンド」

方針

2024年4月にスタートさせた新三か年計画「Shinking2030セカンド」では、前三か年計画「Shinking2030」を踏襲し、新たに見直した3つの具体的な重点事項を掲げて、トライアル&ラーンを繰り返ししながら、目指す姿に近づいていくこととしています。

“ちょうしんきんならではの”活動をとことん追求し、お客さま・地域の課題解決に貢献しながら、地域との持続的な発展を目指してまいります。

目指す姿

課題解決サポート体制を“ちょうしんきんならではの”課題解決プラットフォームへと進化させ、最も身近な「ファーストアドバイザー」として、お客さま・地域の課題解決に貢献し、圧倒的な信頼を獲得する。

どのような状況にあっても前向きにトライアル&ラーンを繰り返し、知恵を集め共有しながら、絶えず柔軟に変化し続ける創造性の高い組織になる。

「人財を育む力」を“ちょうしんきんの強み”にまで高め、職員一人ひとりが自ら学び、成長し、お互いに助け合いながら、地域のみならずと共に、豊かで活力あふれる地域社会を創る。

重点事項

お客さまとの接点を増やす

課題解決サポートに注力するため
金庫全体で業務の最適化を行い
お客さまとの接点を増やします

お客さまにより良い提案を行えるようにする

職員の専門性を高め
多様化するお客さまのニーズにきめ細かく
対応できるようにします

全職員が幸せにいきいきと働けるようにする

職員の成長と幸せの実現のため
やりがいを持って気持ちよく働ける
風通しの良い組織にします

しんきんのココロエ

その1 自分のことのように
お客さまのことを知ろう。

その2 お客さまにとって
何が最良なのかを
深く考えて行動しよう。

その3 お客さまとの約束を守ろう。

その4 明るい笑顔、
こころのこもった
挨拶・応対をしよう。

その5 「ありがとう」の言葉が
生み出すウレシイサイクル
を積み重ねよう。

